

緊急医療情報の EBM 情報源への収載情報

山田 知子, 阿部 信一
東京慈恵会医科大学医学情報センター

目的

Evidence-Based Medicine (EBM) を意識した質の高い情報を効率的に参照するための様々な情報源(EBM 情報源)が作られるようになり、それらを利用する臨床医も徐々に増えてきている。

2003 年にアジア地域から世界中に感染が広がった重症急性呼吸器症候群 (SARS) に関する医療情報はインターネットを介して今までにない速度で世界中に伝達された。このような緊急医療問題に対して EBM 情報源がどれだけ対応できているか調査を行った。

方法

まず、約 1 年前の 2003 年に発生した SARS について EBM 情報源として代表的な UpToDate、Clinical Evidence、Cochrane Library (CDSR) への収載状況を調査した。次に 2 年前の 2002 年にホルモン補充療法と乳がんの関係について同様に調べた。また、日本国内で話題となったイレッサ、O157 についても同様の調査を行った。

結果

SARS について、CDSR と Clinical Evidence で検索したところ共に 0 件で、ホルモン補充療法と乳がんの関連性については、CDSR が 12 件、Clinical Evidence が 0 件であった。しかし、UpToDate ではいずれも情報を得ることができた。UpToDate の結果のうち、SARS に関する情報の Reference 62 件を調査したところ、42 件が雑誌論文で、残り 20 件は Web 上の情報だった。また、42 件の雑誌論文のうち最も新しいものは 2004 年 1 月に発行されたもの 7 件であり、そのすべてが論文 (article) であった。

考察

CDSR や Clinical Evidence では約 1 ~ 2 年前の情報はほとんど検索されなかったが、UpToDate では少なくとも何らかの情報を得ることができた。CDSR や Clinical Evidence では、情報が得られた場合、そのほとんどは信頼度が高いかもしれないが、緊急医療情報を探す場合には適当な情報源ではないと思われる。しかし、今回調査した EBM 情報源の中では UpToDate は最も速報性の高いデータベースであることがわかった。UpToDate の Reference には Web 情報が多く、CDC や WHO などの関連サイトにリンクされているため、最新情報にアクセスすることができたり、雑誌論文はメジャーな雑誌に収載されたもので、数ヶ月前に発行されたものが多く、速報性を維持するための工夫も感じられた。

このような結果を得たことにより、今後、EBM 情報を提供する場合、利用者の要求に応じて使い分ける際の参考にしていきたいと思う。